



湘北短期大学の SDGs について ご紹介するニュースレターです

～発行者からのお知らせ～

今年度から、Web サイト湘北 SDGs を開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、Web サイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は地域に根ざした教育機関として「Think Globally, Act Locally」を合言葉に、社会課題の解決にむけて持続可能な未来の創り手を社会に送り出していきたいと思います。



Web サイト湘北 SDGs ↑
最新のニュースは「取り組み」から、
第 1 号から第 11 号は「ニュースレター」
にてご覧いただけます。

小島由記子先生の活動はこちらから

色彩総合プロデュース
「スタイルプロモーション」↓



<https://fb-style.com/>

今号に関連する SDGs



湘北 SDGs

Think Globally, Act Locally.

2023 年度 第 6 号

(通算第 12 号)

今回の発行人 築瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学 生活プロデュース学科

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

【授業紹介】

「ファッション文化論」美容文化とメイクアップの流行における SDGs

(2023 年 9 月 29 日)

非常勤講師の小島由記子先生が担当するリベラルアーツ科目「ファッション文化論」では、学科や学年の垣根を越えてファッションを通して"文化（カルチャー）"に興味がある学生が履修しています。美容業界の今とこれからを学ぶ「ライフスタイルと美容」の回は、業界の現状や SDGs の取り組みを学び、自分なりの意見を述べる授業です。国内メイクアップブランド「THREE」を一例にした内容では全学科・全学年の学生が履修可能な授業ゆえに様々な着眼点があり、学生の等身大の目線で語られた感想や SDGs に対する意識や興味が伝わってくる意見が多く寄せられました。

「公式サイトに"インクの使用量を大幅に低減できる THREE オリジナルグレー紙"を開発と書かれています。敢えてシンプルなデザインでインクの使用量を抑えているのに高級感のあるパッケージを見て、THREE の環境と美へのこだわりを感じました」（総合ビジネス・情報学科 ビジネス情報コース N さん）

「紙製ショッピングバッグの提供を終了し、繰り返し使用できるリユースバッグにしたことで普段使いもしやすく、店舗にも気軽に持って行ける良い取り組みだと感じました。環境への配慮をした上で利用者も喜ぶ Win-Win な関係がいい。ビニールや紙製の袋を有料にする、なくす、だけではなく"代わりのものを作る"ことを大切にしていきたいです」（生活プロデュース学科 子どもサービスコース I さん）

「使わない部分を減らす、という原料を最大限有用する考え方は食品開発に多いものだと思っていました。化粧品は消耗品であり、現代では化粧品をしないことが直接命に関わることはありません。化粧品が環境に関係すると考えたこともなかったので、今回 THREE の取り組みを知ってとても新しい試みだと感じました。これからはどんなものでも原料や包装資材に気をつける時代になるのだと思います」（生活プロデュース学科 医療事務・情報コース N さん）

「国産原料への取り組みについて関心を持ちました。国産のものを使えば地域産業の活性化、耕作放棄地の解消にもつながるし、今の SDGs にも交換できると思いました。国産なので成分などにも安心して利用できる点も良いと思いました」（総合ビジネス・情報学科 ビジネス情報コース N さん）

(裏面につづく)

「今回初めて知った日本ブランドの THREE。今まで食品や機械で国産を主張するものが多くあったけれど化粧品の原材料を国産で厳選するのは初めて聞きました。各々のこだわりがよく見て取れて、この会社の社長さんに職人に近いものを感じてとても安心しました」（総合ビジネス・情報学科 ショップマネジメントコースMさん）

「不要と思われているものが美容に繋がるというのは驚きました。人工的に作り上げられたものを使用するのではなく、人も自然の一部と捉え、美しさを目指しているところが素敵だと思いました」（生活プロデュース学科 ファッションコースTさん）
(リベラルアーツセンター 非常勤講師 小島由記子)

【図書館の取り組み】 図書館も湘北祭に出展！～収益は日本点字図書館に寄付～

(2023年10月)

4年ぶりに対面開催される湘北祭で、図書館も何か出来る企画はないかと考え、館内で、本・雑誌・衣類などの「リサイクル市」と「米袋のブックカバー販売」を実施しました。以前、リサイクル品は、無償で提供していましたが、今回は、利用者自らがリサイクル品の価格を決め、募金する形に変更しました。

また、米袋のブックカバーは、職員が30kg用の米袋（紙製）を再利用して、文庫サイズのブックカバーに仕上げ、当日は、図書サークルの学生が代理販売をしてくれました。ブックカバーの売上金とリサイクル品の募金と併せて、36,000円を日本点字図書館へ寄付しました。この日本点字図書館への寄付は2019年以来、2回目となります。

読書の楽しさや豊かさを多くの方に伝えたい、また、目の不自由な方の読書支援をしたい、そんな思いを胸に、学生と職員が協力し、引き続き、取り組んでいきたいと思えます。（図書館）



【大学の取り組み】 学内の女性用トイレに生理用品を配置

(2023年9月)

2023年9月、防災備蓄用品の入れ替えの為、生理用品を学内13か所の女性用トイレに配置しました。まだ使えるものを廃棄せず、古いものであることを説明したうえで有効活用し、責任をもって使いきれよう取り組んでまいります。

生理の貧困問題は、経済的な事情から生理用品が買えないこと以外に、急な生理の時などに、生理用品がないために授業を欠席や早退するなど勉学の機会を失うこと、心理的に不安なまま不衛生な生理用品を長時間使用してしまうことなどがあります。学内に生理用品を配置することで、女性特有の負担を軽減し、心理的な安心感の向上により、学校生



活の質を高めることも期待しています。

本学では、引き続き多様性を尊重し、持続可能な社会の実現をめざしてSDGsの推進活動に取り組んでまいります。（総務部）

